

ナスにおける土着天敵「タバコカスミカメ」利用のための取組紹介

～空きハウスを利用し天敵を増やして難防除害虫を抑え込む～

平松 志歩（東三河農林水産事務所）

【2024年9月掲載】

【要約】（200字程度）

東三河地域の冬春ナス産地で、土着天敵「タバコカスミカメ」を利用した防除体系を確立するため、タバコカスミカメを増殖するための地域増殖ほ（以下、温存ハウスという）を設置した。温存ハウスでタバコカスミカメが増殖されることが確認され、天敵導入を希望する23名の生産者に供給する体制ができた。さらに、アザミウマ類及びコナジラミ類に対する防除効果及び化学合成農薬削減効果も実証でき、産地でタバコカスミカメの利用が拡大している。

1 はじめに（背景と目的）

J A豊橋茄子部会は、部会員数 54 戸、面積 13 ha で、県内有数の促成ナス産地である。収穫期間は9月から翌年7月まで長期に渡り、アザミウマ類及びコナジラミ類の加害による品質低下が問題となっているが、近年、薬剤感受性の低下により防除が困難となっている。市販の天敵製剤はナスに登録がないため、部会は土着天敵の「タバコカスミカメ」に着目し、農業改良普及課と関係機関が連携し、数名の生産者を中心に土着天敵タバコカスミカメを用いた防除に取り組んできた。しかし、タバコカスミカメの増殖・採取を共同で行う仕組みがなく、産地での普及が進まなかったため、令和4年度から5年度にかけて産地と関係機関が協力し、タバコカスミカメの温存ハウスを設置し、効率的な増殖方法及び防除効果を検証したので、その活動内容を紹介する。

なお、この取組には国費事業（グリーンな栽培体系への転換サポート）を活用し、温存ハウスの運営は、J A豊橋茄子部会の有志が運営する「J A豊橋茄子部会みどり戦略協議会」が行った。

2 活動内容

(1) 協議会の設立

J A豊橋茄子部会、J A豊橋、J Aあいち経済連、農業総合試験場普及戦略部、東三河農林水産事務所農業改良普及課で「J A豊橋茄子部会みどり戦略協議会」を令和4年4月に設立し、管内の空きハウスを利用して温存ハウスを設置した（図1）。

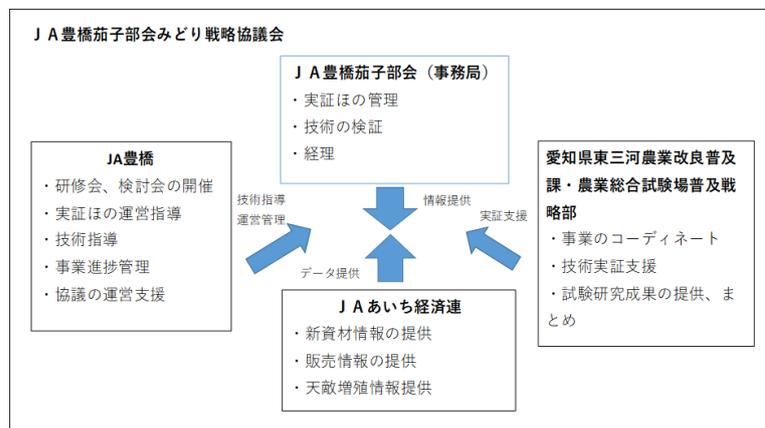


図1 JA豊橋茄子部会みどり戦略協議会の体制図

(2) 導入計画の作成

天敵を温存するクレオメの定植時期・本数、栽培方式などを関係機関と検討し、タバコカシカメをナス本圃へ導入するための計画を作成した。研修会で天敵導入を希望する生産者に導入計画を示した。

(3) 実証ほの設置

ア 温存ハウス

温存ハウスでは、タバコカシカメの増殖程度及び作業時間について検証した(写真1)。タバコカシカメは、クレオメ4株/m²あたり272頭の増殖が可能であった。



写真1 クレオメ定植時の様子

イ ナス本圃

ナス本圃では、タバコカシカメによるアザミウマ類及びコナジラミ類の防除効果及び化学合成農薬の削減効果等を確認するため、実証ほを令和4年度に3戸、5年度に4戸で設け、その効果について検証した(図2)。その結果、タバコカシカメを年内に0.2頭/葉(花)以上定着させることで、追加放飼しなくても春先のコナジラミ類及びアザミウマ類を0.5頭/葉(花)未満に抑えられることがわかった。また、殺虫剤使用回数及び農薬費は慣行防除に比べて4年度は23回、94千円/10a、5年度は22回、104千円/10aずつ(各ほ場の平均)削減できた。

生産者が天敵をより上手に活用できるように、天敵利用状況アンケートを天敵を導入している生産者を対象に実施し、放飼時期や放飼前の農薬使用状況、放飼量等を把握し、検討会の場で生産者にフィードバックした(写真2)。

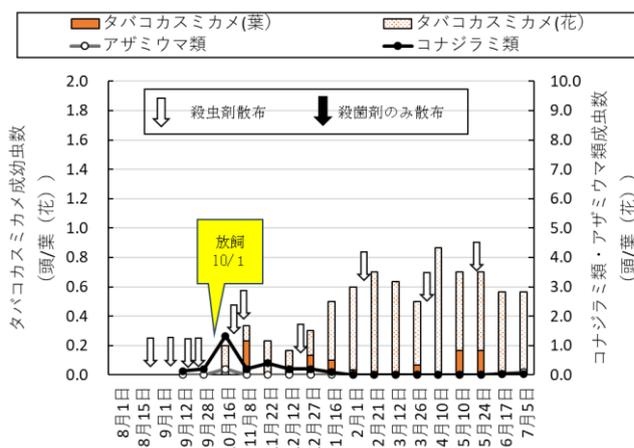


図2 5年度天敵が定着したほ場の害虫・天敵発生状況

(4) マニュアルの作成

実証結果をもとに、「タバコカシカメ利用マニュアル(※)」を作成した(図2)。温存ハウスの管理スケジュール、タバコカシカメ放飼前後の管理における注意点、タバコカシカメを導入する際の農薬散布事例等をマニュアルに盛り込み、新たに導入を希望する生産者がスムーズにタバコカシカメを導入できるように実証した生産者の



写真2 検討会の様子

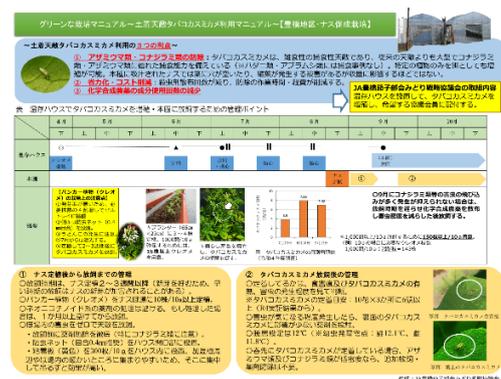


図3 マニュアル(表面のみ)

意見を反映した。

※ダウンロードURL : <https://www.pref.aichi.jp/soshiki/nogyo-keiei/demo.html>

3 取組の成果

- (1) 実証により、タバコカスミカメによるアザミウマ類及びコナジラミ類の防除効果及び殺虫剤使用剤数の削減効果、農薬費削減効果が明らかになった。
- (2) 生産者 23 名が積極的に温存ハウスの運営管理に携わり、検討会の場で改善点を話し合うことで、令和 5 年度には天敵利用生産者のほとんどがタバコカスミカメを利用した防除体系を導入することができた。
- (3) 出荷反省会で他の部会員に活動内容を報告することで、天敵利用に対して理解・関心を高めるとともに、天敵を普及拡大できた。
- (4) 温存ハウスを利用したタバコカスミカメの供給体制と、ナス本圃でのタバコカスミカメを利用した害虫防除体系が確立でき、「タバコカスミカメ利用マニュアル」を作成できた。

4 今後の展開

本取組により 23 名分のタバコカスミカメを確保する体制が構築された一方で、新たに天敵を導入する意向のある生産者に対して、現状の温存ハウスでは供給量が不足しており、供給体制に課題がある。今後は、新たな温存ハウスの確保や天敵温存植物の栽培方式の見直し等を行い供給体制を強化し、新規の天敵を導入する部会員を増やすことを目指していく。